



自己紹介

いりえ やすお
入江 康男さん、ユリ子さん
(水上村)

平成7年から有機農業を開始しました。それまでは慣行栽培で普通に農薬を使っていましたが、自分の体や環境に対する影響を考え始め、有機農業に転換しました。水稲は平成13年に、たまねぎは平成15年に有機JAS認証を取得しました。

生産品目

水稲（うるち米、酒米）、たまねぎ

苦労している点

有機に転換した当初は、雑草や病害虫の対策に大変苦労しました。除草作業が大変で、有機栽培をやめて除草剤を使用しようかと圃場へ持って行ったこともありましたが、環境や体のことを考え使用することはできませんでした。



地域の畦畔野焼き風景
(雑草の抑制や害虫の予防、畦の維持管理に寄与)

生産するうえでのこだわり

有機栽培の根幹は土づくりにあるという信念のもと、EM菌※を混ぜた牛糞堆肥及びEM菌になたね油かす、かに殻等の有機JAS資材を混ぜた自家製ぼかし肥料を散布しています。この積み重ねによって作土が豊かになり、作物自体が強くなり育つようになったと実感しています。

※EM菌（有用微生物群）
乳酸菌や酵母、光合成細菌などの微生物の集合体で、環境改善や農業に利用される微生物資材。

消費者の皆さんへ

米・たまねぎともに販売先から「味が良い」「おいしい」と高い評価をいただいています。特にたまねぎは甘みが強く、生でも食べられると好評です。

販売先

米は、主に近隣の酒造会社と契約販売しており、一部を熊本市内の病院へ販売しています。たまねぎは、沖縄県や埼玉県の有機関連事業者へ販売しています。



有機JAS認定書

